

## 2011年度第2四半期 連結業績 国内機関投資家・アナリスト向けカンファレンスコール Q&A(要旨)

日 時: 2011年11月14日 17:30~18:30

回答者: ソニーフィナンシャルホールディングス 取締役 渡辺 寛敏

ソニー生命 取締役 小泉 光廣

ソニー損保 取締役 丹羽 淳雄

ソニー銀行 執行役員 鈴木 隆行

※内容については、理解しやすいよう部分的に加筆・修正、QA 順序の並べ替えをしております。

カンファレンスの中で、「ソニー生命の市場整合的なエンベディッド・バリュー (EV) を構成する保有契約価値の試算結果について」の説明を行いました。

### 【ご説明の内容】

ソニー生命では、経済価値ベースのリスク管理を実践する中で資産負債の金利ミスマッチリスクの縮減を行ってまいりました。引き続き、金利変動を中心とする金融市場要因の影響が限定的となるような資産負債構造の維持に努めるとともに、当社株主をはじめ投資家の皆様に対して、適時・適切な情報開示を積極的に行なうため、四半期ごとに金利変動等が保有契約価値に及ぼす影響額を試算し、その結果をお伝えします。

ソニー生命では、将来の保険金等支払いに備えた資産運用を超長期の日本国債を中心に行うことにより、資産負債の金利リスクを総合的に管理しており、社内管理目的においては負債の割引率に日本国債の利回りをを用いることが適切と認識しております。したがって、本試算上、2011年3月末のソニー生命の保有契約価値に対して適用する2011年9月末の市場金利については国債利回りを採用し、あわせて同時点のボラティリティを用いて、保有契約価値の増減額を試算しました。

#### 一保有契約価値の増減額(2011年3月末から9月末):約1,460億円減少

- ・保有契約価値の構成要素である確実性等価利益現価とオプションと保証の時間価値部分のみの変動試算です。具体的には、2011年3月末の国債利回りをを用いて試算した保有契約の当該部分に対して、計算前提のうち国債利回り、金利スワップションおよび為替レートのインプライドボラティリティだけを9月末の数値に変更して試算しています。
- ・保有契約価値の残りの構成要素であるフリクショナルコストとヘッジ不能リスクに係る費用については、試算を行っていません。

なお、EVの残りの構成要素である2011年9月末の修正純資産は、3月末から約1,390億円の増加となりました。これは、超長期金利を中心に金利水準が低下したため、満期保有目的で保有している超長期債券の含み益が増加したことなどによります。

上記の試算は、2011年3月末から9月末までの間に生じている以下の変化を考慮しておりません。

- ・保有契約が増減すること(新契約獲得による増加分や解約・失効による減少分など)やその商品構成の変化
- ・国債利回り、金利スワップションおよび為替レートのインプライドボラティリティを除く計算前提の変化
- ・フリクショナルコスト、ヘッジ不能リスクに係る費用についての変化

また、試算の妥当性については第三者の検証は受けておりません。

## 【Q&A】

### Q1. [ソニー生命]

2011年3月末時点のエンベディッド・バリュー(EV)に対して、2011年3月末から9月末までの6か月間における新契約価値の積みあがりの影響はどのくらいか？

また、フリクショナルコストやヘッジ不能リスクに係る費用の影響はどのくらいか？

A1.

新契約価値は、2011年3月末金利センシティビティを用いた場合、金利低下の影響を受けており、2011年9月末時点で+約250億円程度の影響と推定。

フリクショナルコストやヘッジ不能リスクに係る費用のみならず、変額保険の市場変動の影響など残りの要因を全て合わせると、2011年9月末時点で▲約600～700億円<sup>(※)</sup>程度の影響と推定。

(※)2011年3月末から2011年9月末までの金利、ボラティリティによる影響▲約70億円(保有契約価値への影響▲約1,460億円および修正純資産への影響+約1,390億円の合計値)を含む。

### Q2. [ソニー生命]

新契約年換算保険料が前年同期に比べて減少しているが、下半期はどのように見ているか？

A2.

がん入院保険や学資保険の販売が減少しており、新契約年換算保険料は前年同期比で減少した。この傾向は下半期も続くと考えている。

### Q3. [ソニー生命]

商品構成の変化によって新契約年換算保険料は前年度に比べて減少しても、EVにおいては、当年度下半期も着実に積みあがるというイメージでよいか？

A3.

下半期も上半期同様、新規契約獲得により保有契約が順調に伸び、利益水準を維持し、その分がEVに上乗せされる。

### Q4. [ソニー生命]

新契約年換算保険料の今後の見通しについて、貯蓄性保険の販売減少により当年度は前年度比で減少するものの、来年度以降は、プラス成長を見込めるのか？

A4.

新契約年換算保険料のプラス成長については、当年度は確かに厳しいが、来年度以降については、商品構成が大きく変化しないのであれば、順調に伸びていくと考えている。

### Q5. [ソニー生命]

基礎利益から逆ざやを差し引いた危険差益と費差益の合計値を2011年度1Q、2Qで比較すると、支払備金の戻し入れの影響を除いても2Qが悪化している。これは変額保険に係る最低保証の責任準備金繰入額の変動によるものだと思うが、1Qおよび2Qの前年同期比較の数値を教えてください。

A5.

2011年度1Qは前年同期比で増益に、2011年度2Qは前年同期比で減益に効いている。2011年度2Qは1Qに比べて、変額保険に係る最低保証の責任準備金繰入額が32億円増加(1Q:8億円、2Q:40億円)している。

### Q6. [ソニー生命]

株式の売却損を計上しているようだが、株式の保有の考え方に何か変更があったのか？

A6.

従来から特に変更はない。

**Q7. [ソニー生命]**

ライフプランナー(LP)の在籍数について、2011年3月末から減少した56名のうち、管理職(所長)への登用による減少はどのくらいか？また、下半期の採用活動の状況はどうか？

A7.

LPから管理職(所長)への登用をこの1~2年で増やしつつある。2011年3月末から減少した56名のうち、半分まではいかない程度、とお考えいただきたい。

採用活動は、震災影響もあり期初は伸び悩んだが、2011年度2Qは前年同期でプラスに転じた。このままいけば、下半期は前年同期を上回り、年間では前年並みもしくはやや上回る見込み。

**Q8. [ソニー生命]**

新契約件数が前年同期に比べて減少している理由は、がん入院保険や学資保険の販売が減少したためか？あるいは、LP在籍数の減少が影響しているのか？LPの生産性で変化があれば教えてほしい。

A8.

新契約件数の減少は、がん入院保険や学資保険の販売が前年同期に比べて減少したことによるもの。

LPの生産性については、具体的な数字はお答えできないが、商品構成が変化した関係で、年換算保険料ベースでは若干下がっている。しかし現在、LPの採用基準の厳格化や育成強化に取り組んでおり、効果もあがってきているので、生産性の低下は一時的なものと考えている。

**Q9. [ソニー生命]**

学資保険の販売が減少した背景は？

A9.

学資保険の販売の不調とは捉えていない。前年同期の販売が、こども手当の影響などにより例年より高い伸びを示しており、それが通常のペースに戻ってきたものと認識している。

**Q10. [ソニー生命]**

学資保険はもともと、中核を成す商品というよりも、それをきっかけにして保障性商品を売っていくための商品、という位置づけだったと思う。保険料に対する利益率では、学資保険は保障性商品より劣ると思うが、LPのコミッションベースでは生産性はそれほど悪化していないのか？

A10.

LPの育成強化が効果をあげていることもあり、コミッションベースでは生産性は上がっている。

**Q11. [ソニー生命]**

解約・失効率が改善した背景は？

A11.

前年同期は家族収入保険のリスク区分型商品への買い替えにより、解約・失効率が一時的に上昇しており、それが通常の状態に戻ってきたものと認識している。

**Q12. [ソニー損保]**

2011年9月に発表した中期経営方針では、2013年度の経常利益を2010年度から倍増とあった。今回のコンバインド・レシオの悪化は中期経営方針の発表時点では把握していたと思うが、2013年度までのコンバインド・レシオの改善ペースについて教えてほしい。

**A12.**

今後も契約獲得件数の伸びについては二桁近い成長を続けられると考えており、増収からくる利益の増加が期待できると考えている。

コンバインド・レシオのうち損害率については、2011年度上半期で悪化した。特に2Qにおいて一部で想定以上の悪化があった。悪化原因の詳細は分析中だが、事故件数が保険料収入の伸び以上に増加したわけではなく、人損系の高額事案が増加したことが原因のひとつと考えている。この傾向が一時的なのか、今後も継続するかについては、引き続き慎重に見極めていく。

2011年2月に実施した保険料改定による損害率の改善効果はこれからも徐々に現れてくると考えているが、万が一、今後も損害率の悪化傾向が続くと判断した場合は、再び保険料改定を行う方向で検討する可能性はある。この場合、保険料率の改定については、2009年度の損害率の水準がベースとして考えられる。

経常利益の中期目標については、仮に損害率が高くなったとしても、異常危険準備金の取崩しの効果もあるので、達成できるものと考えている。

**Q13. [ソニー損保]**

自動車保険の参考純率改定によるノンフリート等級制度の見直しが発表されたが、今後それにとまなうシステム投資が発生する可能性はあるのか？

**A13.**

システムの手当ては必要になるが、通常システム投資の範囲内と考えている。今回の参考純率改定については、ソニー損保の具体的な対応スケジュールは未定だが、システム投資の時期は2012年度上期あたりと想定される。

**Q14. [ソニー損保]**

保険金単価の上昇は、新規の人損系の事案による単価上昇なのか、過去に発生した事案への支払備金積み増しによるものなのか？

**A14.**

主に前年度および当年度に発生した人損系事故について、後遺障害等の高額事案であることが判明し、支払備金が増えていることによるもの。

**Q15. [ソニー銀行]**

金融市場環境の変化に応じて外貨や投資信託における投資行動にもさまざまな変化があると思うが、ソニー銀行の預金者の投資行動に何か変化があれば教えてほしい。

**A15.**

投資行動に大きな変化はないと考えている。ソニー銀行の預金者は外貨を円高局面で購入し、円安局面で売却するという逆張りの投資行動を取る傾向にあり、従来からの変化はない。

以上